

風疹抗体価とワクチン接種について



風疹抗体価の低い人(16倍以下)は風疹にかかるリスクが上昇します。

※抗体とは、体に入っている最近やウィルスに抵抗して毒を出さないようにしたり、感染を防いだりする物質のこと。タンパク質の一種です。

風疹の抗体が充分にない人は風疹にかかる可能性があります。妊娠中に風疹にかかると、赤ちゃんが先天性風疹症候群にかかることがあります。夫(パートナー)を含め周りの方も抗体価をチェックし、低い場合はワクチンを接種してください。

風疹抗体が低値の妊婦さんにご家族の方にお伝えしたいこと

妊婦さんと赤ちゃんを風疹から守るために、まずご家族の方が風疹にかからないことが大切です。パパ世代(特に30代～50代)の男性は予防接種を受けていない人が多く、感染の拡大が問題となっています。

1. 妊婦さんは今回の分娩後に、必ず風疹の予防接種を受けましょう。
あなたが次に妊娠した時に、風疹にかかることを心配しなくてよいように予防接種を受けましょう。もし、妊娠の予定がないとしても、あなたが風疹にかかったら、身近にいる他の妊婦さんにうつしてしまう可能性があります。



2. ワクチン接種について
住民票のある市町村の保健センターで風疹の抗体価の検査を受けることができます。
当センターでは、MRワクチン(麻疹・風疹混合)は自費となります(価格はスタッフに確認してください)。
ワクチン接種の費用を助成している市町村が多いですが、市町村により異なります。助成があるかどうかは、1か月健診までにご自身で市町村の保健センターにお問い合わせください。

3. よくある質問

Q:大阪母子医療センターで抗体価検査を受けることができますか?

A:妊婦さんは、必ず妊娠初期に検査を行います。検査結果をお渡しするので、紛失しないようにしてください。ご家族の方は、住民票のある市町村の保健センターで風疹の抗体価の検査を受けることができます。

Q:抗体価が低かったらどうなりますか?

A:妊婦さんは、風疹にかからないよう気をつけなければなりません。妊娠中に風疹にかかるとお腹の赤ちゃんが風疹ウィルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、身体的精神の発達の遅れなどの障害をもって生まれてくる場合があります(先天性風疹症候群)。

Q:抗体が低いときはどうすればよいですか?

A:風疹ワクチンを接種することにより、抗体をつけることができます。

Q:ワクチンはどこで接種可能ですか?

A:大阪母子医療センター受診されている妊婦さんは風疹(または麻疹・風疹混合)ワクチンを1か月健診時に接種することができます。次回の妊娠を考えている方もいない方も、抗体価が低い方は接種を推奨します。ワクチン接種の費用を助成している市町村もありますので、各市町村の保健センターにお問い合わせください。当センターでは、ご家族の方への接種は行っておりません。